

TOPICS

- ▶ 東京消防庁新宿消防署より
「救急業務協力者感謝状」を拝受しました／総務企画課長 谷口 尚基
- ▶ 東京山手メディカルセンターでの10年を振り返って／
糖尿病内分泌科部長 山下 滋雄
- ▶ 栄養管理の重要性はスタッフの意識から／栄養管理室 室長 遠藤 さゆり
- ▶ 12月外来担当表

東京消防庁新宿消防署より「救急業務協力者感謝状」を拝受しました

総務企画課長
谷口 尚基

令和6年9月9日（月）の「救急の日」に際し、当院は東京消防庁新宿消防署より「救急業務協力者感謝状」を授与されました。

この感謝状は、当院が日ごろから消防行政、特に救急業務全般にわたり深く協力していることに加え、「救急の日」および「救急医療週間」にあたり、救急業務に多大な尽力をしていると高く評価されたものです。これもひとえに、地域の医療機関の皆様、そして住民の皆様が当院の救急医療体制にご理解とご支援をくださっている賜物であり、心より御礼申し上げます。

去る9月12日（金）、新宿消防署において感謝状贈呈式が執り行われ、当院からは副院長、事務部長、総務企画課長が出席し、新宿消防署長より心温まる言葉とともに感謝状を拝受いたしました。栄えある表彰を受け、改めて地域の救急医療を担う責任の重さを実感するとともに、日々、過酷な現場で活動されている救急隊員の皆様と共に歩む決意を新たにしております。

当院では、「断らない救急」を基本方針に掲げ、一人でも多くの救急患者さんを受け入れることを目指して、体制整備と継続的な改善に努めてまいりました。その中核を担うのが、毎月1回開催している「救急医療運営委員会」です。委員会には医師、看護師、コメディカル、事務職員など多職種が参加し、救急医療の現状や課題を共有しながら、具体的な改善策を協議しています。

委員会では、救急車の要請件数、応需件数、応需率、救急車搬送患者の入院率といった実績データを詳細に分析し、なぜ応需できなかったのか、どのようにすれば受け入れを増やせるかを多角的

に検討しています。その結果として導き出された施策の一つが、「日曜日の内科当直医2名体制」の導入です。休日の救急要請が特に多い傾向を受け、医師の負担を軽減しながら迅速な受け入れを可能とする体制へと改善を図りました。この取り組みにより、日曜日の応需率は着実に向上し、地域の救急ニーズに応える体制がより確かなものとなっています。

今回の感謝状授与は、こうした職員一人ひとりの地道な努力が評価されたものであり、当院にとって大きな励みとなりました。私たちはこの栄誉に決して驕ることなく、地域の皆様が安心して暮らせる社会の実現に向けて、より一層の研鑽を重ねてまいります。

今後も、地域の医療機関の皆様と連携を深め、救急隊員の皆様と手を携えながら、地域全体の救急医療体制の充実と発展に貢献してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



東京山手メディカルセンターでの10年間を振り返って

東京山手メディカルセンターで過ごした10年間は、私にとってまさに人生の転機でした。入職当初の緊張と期待を胸に、医療の現場に足を踏み入れた日のことは今でも鮮明に思い出されます。実は、私が入職した直前のセンターは、専門医や指導医が不在という非常に危機的な状況にあり、医療体制が揺らいでいました。そのような厳しい環境の中、現場の皆さんと力を合わせて再建に取り組む決意を新たにしました。多くの出会いがあり、時には嬉しいことも、そして辛いことも経験しましたが、どれもかけがえのない学びとなっています。

特に、入職にあたり温かいお声掛けをくださった齊藤寿一名誉院長には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。齊藤名誉院長のお導きとご配慮がなければ、今日の自分はなかったと強く感じております。新しい環境へ踏み出す勇気を与えてくださったことに、深く感謝申し上げます(写真1)。また、部長室で一人過ごすことの多かった入職当初から、ことあるごとに声をかけてくださった高添先生(写真2)、柳先生(写真3)はすでに退職されていますが、忘れられない存在です。

私がこのセンターで勤務を始めたのは、新しい環境で自分がどこまでできるのか挑戦したいという思いからでした。糖尿病専門医としての業務には慣れておりましたが、独特の文化の壁に戸惑い、スタッフのサポートを受けながら少しずつ成長することができました。患者さんの病状を正確に把握し、最適な治療を提供するためには、医学的知識だけではなく、コミュニケーション力やホスピタリティも重要です。小さな変化にも気づき、患者さんやそのご家族が安心して過ごせるよう心を配ることの大切さを痛感した日々でした。

この10年の間で私が携わったさまざまな実績の中でも、特に印象的だったのは、糖尿病診療サポートチーム(DMST; Diabetes Mellitus Support Team)の中心となり、急性期病棟での

血糖管理プロジェクトを主導したことです。それまで自主的な集まりに過ぎなかったチームを委員会組織に格上げし、現場スタッフとともに規約やマニュアルを作成し、全スタッフへの研修を実施しました。



写真1 齊藤先生と



写真2 高添先生と



写真3 柳先生

毎週月曜日の午後、病棟最上階のナースステーションにチームのメンバーが揃い、各病棟の御用聞きにまわります。前もって専攻医が入院中患者の血糖値とHbA1cをスクリーニングし、高値を示している患者のカルテを参照して介入候補者を絞ります。糖尿病内分泌科に併診依頼がまだない患者に対して、常食からエネルギー調節食への変更や血糖測定を主治医に依頼し、場合によっては併診依頼を促すのが主な活動です。さらに、認定看護師の多田さんが新入院の患者カルテを閲覧して、入院前から糖尿病治療中の患者がいないか、ステロイド治療や免疫チェックポイント阻害剤などの抗がん剤使用が予定されていて、血糖値の上昇が予想される患者がいないかチェックしています。これらによって拾い上げた介入候補患者を確認し、各現場の看護師が血糖管理について問題を感じている症例がないか、対面で確かめるのです。その結果、当院の高血糖による事故は大幅に減少し、患者さんとスタッフの安全を守ることに貢献できました。以前は散見された、気がつくとう血糖値が500mg/dL以上、ときには1000mg/dLとなっていたという症例はこの10年間で皆無となっています。

また、患者さんの退院支援や在宅医療へのスムーズな移行を目的として、多職種連携カンファレンスを定期的に行いました。特に高齢患者の在宅復帰率の向上を目指し、ソーシャルワーカーやリハビリスタッフ、地域包括支援センターと協力して、きめ細やかなフォロー体制を構築。結果として、退院後の再入院率を低減することができたと考えています。

さらに、後進の指導にも力を注いできました。当院で初期研修を終了した医師のみならず、東京大学、東京女子医科大学、富山大学、大森赤十字病院などから後期研修の場として若手の医師を受け入れ、学会報告を含めて臨床・研究の指導をして参りました(表1)。こうした取り組みを通じて、チーム全体のモチベーション向上や現場力の底上

げに貢献できたことは、大きな誇りです。

診療の場面では、時間との戦いの中で冷静な判断が求められます。患者さんやご家族の不安を少しでも和らげるため、丁寧な説明を心掛け、信頼関係を築くことに努めました。ときには予期せぬ事態や困難なケースに直面することもありましたが、同僚や医師、看護師と力を合わせて乗り越えた経験が、私の成長につながっています。チーム医療の重要性は、こうした現場で何度も痛感させられました。

患者さんの回復を見届けることができるのは医療者として大きな喜びです。リハビリテーションを通じて少しずつ歩けるようになった方や、治療後に笑顔で退院される方の姿は、私の心に深く刻まれています。反面、治療の限界や病気の進行により、悲しい別れを迎えることもありましたが、そうした経験は、決して忘れることのできない痛みですが、医療の現場にいるからこそ感じられる命の重みと向き合い、自己研鑽に励む原動力となっています。

また、地域医療の現場として、東京山手メディカルセンターは多様な患者さんが訪れます。高齢者の方々の生活支援や、外国籍の患者さんへの対応など、地域社会とのつながりを意識した医療を提供することが求められます。多職種連携の中で、ソーシャルワーカーや薬剤師、リハビリスタッフなどと意見を交わし、地域の課題解決や予防医療にも力を入れるよう心がけてきました。特にここ数年は看護師特定行為研修の委員長として、当院における研修システムと活用のための環境整備を行い、従来看護師資格のみでは許可されなかった医療行為を行うことが可能な看護師の育成および支援体制拡充に努めたことも、大きな実績のひとつです。

この10年間で得た知識や経験は、私の人生を豊かにしてくれました。医療人としてだけでなく、一人の人間として成長する機会を与えてくれた東京山手メディカルセンターには、言葉では言い尽

くせないほどの感謝の思いがあります。出会った患者さん、支えてくれた同僚、指導してくださった先輩方、そして家族の理解と協力で心から感謝しています。今後も医療現場で学び続け、社会に貢献できるよう、誠実に歩みを進めていきたいと思います。

そして、私自身は 2025 年度をもって定年退職を迎えることとなりました。10 年間の経験と、ここで得た多くのご縁を胸に、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、最後の日まで責任をもって職務を全うしたいと思っています。

東京山手メディカルセンターで過ごした日々は、私にとってかけがえのない財産です。医療の現場は常に変化し続けますが、患者さんのために何ができるかを考え、責任と誇りを持って働いていきたいと強く思っています。これからも新しい挑戦を恐れず、医療者としての使命を胸に、一步一步成長を重ねていく所存です。

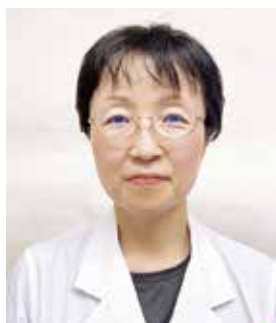


表 1
実患者数

主病名	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
外来					3645	4087	2900	2972	2770	2858	
糖尿病	1797	1885	2360	2318	1775	1884	2072	2104	2178	2248	
高血圧症	590	606	1489	1508	940	1075	1265	1393	1465	1527	
脂質異常症	232	248	871	1780	519	641	1500	1605	1730	1874	
視床下部・ 下垂体疾患	3	4	3	3	13	18	21	26	31	34	
甲状腺疾患	213	294	383	387	326	395	494	480	492	536	
副甲状腺疾患	11	10	35	32	32	36	54	63	87	94	
副腎疾患	17	27	25	25	40	38	91	109	108	119	
入院 (レセプト上)	104	143	182	186	145	107					
退院・転科						138	228	202	229	278	
他科入院中 併科併診		342	249	319	289	487	720	668	718	720	
スタッフ	(山下 着任 前年)										
部 長		山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下	山下
医 長	田中								堀越	堀越	堀越
医 員	後藤 (佐)	三木	三木	三木	後藤 (佐)		竹下	(竹下)	日高	日高	日高
専 攻 医	中嶋	中嶋	渡邊		川島	中西	石橋	(鈴木)	會田	松山	加納
専 攻 医	引間				石田	瀬水	池本	(高澤)	(松山)	(加納)	(浅井)
専 攻 医						伊上		(浅野)			(大田**)
非常勤外来	7名	6名	5名	3名	4名	6名	7名	6名	6名	5名	6名

** 5月退職
() 1年未満の勤務

栄養管理の重要性はスタッフの意識から



～日本栄養治療学会（JSPEN）臨床教育施設と委員会活動など～

連携施設の先生方、いつも大変お世話になっております。

当院は2023年より日本栄養治療学会（JSPEN）臨床教育施設に認定され、毎年実地修練生を受け入れています。2023年は当院の職員も含め7名、2024年は9名で、年々増加しており、看護師・薬剤師・管理栄養士以外に、2024年より理学療法士や言語聴覚士も参加しています。栄養に関することは栄養士や栄養サポートチーム（以下 NST）だけが担うのではなく、院内スタッフ全員がそれぞれの持ち場で対応できるような環境を作りたいと様々な取り組みを行っています。

【JSPEN 臨床実地修練（以下研修）】

当院の研修は橋本院長、山名副院長助言の元、久保田胃食道外科部長（JSPEN 認定医）、栄養・NST・嚥下支援委員会委員（消化器内科、腎臓内科、歯科・口腔外科、耳鼻科医師他 NST メンバーなどで構成）を講師とした、1日8時間5日間の計40時間のプログラムです。より専門的な研修とするため、委員以外に循環器内科、呼吸器内科・外科、炎症性腸疾患の医師も講師となっています。

人員の事情によりなかなか研修に行くことが難しい院内の看護師や薬剤師などの研修修了者増加を目指して教育施設の認定を取得しましたが、外部からの希望者が予想外に多く、理学療法士、言語聴覚士の職種の方も受け入れています。

この研修は Web 研修が認められていません。1日8時間の講義・実習で、かなりハードですが、

参加者の中には病院でリーダー的な存在の方もいらっしゃると思いますので、長期間に渡る研修より5日間集中の方が良いという意見も踏まえました。研修では多職種チーム制で症例検討を行い、最終日に発表するというプログラムも組まれています。現在の JSPEN 研修規程で症例レポートは提出不要となりましたが、やりっぱなしではせっかく学んだ内容が身に付きません。研修で学んだ内容を踏まえるだけでなく、自身の職種の視点も盛り込むことを必須として、研修生全員が参加する形式にしています。電子カルテの操作など、苦戦しながら5日間でまとめ上げるため、最終日には仲間意識が高まり、和やかな雰囲気ですべて終了となります。

【NST 活動】

当院の NST は、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・言語聴覚士がメンバーとなっており、毎週火曜日・木曜日を回診・カンファレンス日として活動しています。

JSPEN の研修を受けた医師は5名、他看護師・薬剤師・管理栄養士の有資格者は18名おり、研修修了者は、NST 回診メンバーとしてさらに栄養管理の技術を磨いています。

【栄養・NST・嚥下支援委員会教育研修】

委員会として毎年院内研修を開催しており、テーマはその時々ですが、「栄養管理総論」「食物アレルギー」などをテーマとして、eラーニング形式にて開催しています。

「栄養」というカテゴリーの中で、全職員へ情報を発信し、関係する職員以外にも栄養管理の重要性を啓蒙しています。

【当院の食事より一部ご紹介】

＜オリジナル GFO＞

長期の絶食では腸粘膜が萎縮しており下痢を起こしやすいことから、経腸栄養や経口摂取を開始する際には、グルタミン（G）＋水溶性食物繊維（F）＋オリゴ糖（O）にはちみつ（Honey）を加えたオリジナル GFO＋Hを1～数日摂っていただいた後、固形の食事を開始します。



＜ご飯・お粥＞

主食には水溶性の食物繊維を加えています。腸に負担がなく食物繊維を増やし、適度な硬さの便やスムーズな排便をサポートする目的で導入していましたが、お米のつや感や食味向上の効果もあるようで、当院のご飯のおいしさを引き立ててくれています。



＜個別化＞

芋・乾パン…便を固める効果があるとされ、便が緩い患者さんに対し医師の指示に基づいて付加食品として提供することがあります。



当院の栄養管理は、専門の研修を終えたスタッフが様々な視点から介入させていただいており、疾患の治癒や安定を目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

東京山手メディカルセンター 外来担当表

2025/12/1～

※医師の指定がある場合は、お電話にて休診をご確認ください。 ※診療の受付時間は8:30～11:00です。

◆受付時間を過ぎる場合や緊急の場合は地域医療連携室にお問い合わせください。

総合医療相談室(業務時間 午前8:30～午後5:00) 直通 TEL:03-3364-0366 直通 FAX:03-3365-5951

◆午後5:00～午前8:30の夜間、土日祝日はこちらにお問い合わせください。 → 03-3364-0251(代表)

※女性

科別				月	火	水	木	金
内科	内科1		増田 怜(循)	*中村 玲奈(循)	薄井 由男(循)	薄井 由男(循)	大沼 隼一(循)	
			重田 卓俊(循)	村上 輔(循)	渡部 真吾(循)	吉川 俊治(循)	鈴木 篤(循)	
			佐野 弘二(消)	三浦 英明(肝)	*米野 由希子(血)	三浦 英明(肝)	*小堀 朋子(呼)	
			大河内 康実(呼)	*米野 由希子(血)	*井窪 祐美子(呼)	園田 光(炎腸疾)	大河内 康実(呼)	
			*岩本 志穂(炎腸疾)	園田 光(炎腸疾)	深田 雅之(炎腸疾)	*岩本 志穂(炎腸疾)	深田 雅之(炎腸疾)	
			徳田 均(呼)予約制	笠井 昭吾(呼)	金子 駿太(リ膠)	服部 元貴(呼)		
			東海林 寛樹(呼)		*酒匂 美奈子(炎腸疾)	鈴木 淳司(腎)	齊藤 悠一(消)	
			岡野 荘(炎腸疾)	*立石 翔(消)	齋藤 聡(消)	上山 知人(消)	*酒匂 美奈子(炎腸疾)	
	初 診	交替制	交替制	交替制	交替制	交替制		
	I B D初診	深田 雅之	*酒匂 美奈子	園田 光	岡野 荘	*岩本 志穂		
	リウマチ膠原病科(予約制)	石黒 賢志(午後)	金子 駿太	金子 駿太(午後)		*金地 美和(午後)		
	内科2		加納 裕也(糖)	日高 章寿(糖)	山下 滋雄(糖)	日高 章寿(糖)	*堀越 桃子(糖)	
山下 滋雄(糖)			*堀江 有実子(糖)	*堀江 有実子(糖)	*堀越 桃子(糖)	山下 滋雄(糖)		
野本 宏(マタ)			*古田 夏紀(マタ)	鈴木 淳司(腎)	*武田 詩穂(マタ)	水野 智仁(腎)		
大腸・ 肛門外科	(予約制) 直接肛門科外来にお電話ください。 内線2160		*古川 聡美	山名 哲郎	*西尾 梨沙	岡本 欣也	大城 泰平	
			岡本 欣也	*西尾 梨沙	大城 泰平	山名 哲郎	*古川 聡美	
*井上 英美(午後)				*井上 英美(午後)				
外科	午前	消化器外科 (上部消化管・肝胆脾)	久保田 啓介	工藤 宏樹	伊地知 正賢	森戸 正顕	工藤 宏樹	
			*大森 瑠衣					
		乳腺外科			橋本 政典			
		形成外科	佐藤 淳俊	佐藤 淳俊	*富岡 容子	佐藤 淳俊		
		呼吸器外科	*山本 沙希	水谷 栄基		水谷 栄基		
		心臓血管外科		恵木 康壮	高澤 賢次		村岡 新(あし外来含む)	
	午後 ※印は予約制直接外来にお電話ください。 内線2120				※リンパ浮腫ケア外来2・4週 佐藤 淳俊	※ソケイヘルニア外来 伊地知 正賢	※乳腺外来 工藤 宏樹	
		久保田 啓介(乳癌一次検診)			伊地知 正賢(乳癌一次検診)			
		*山本 沙希			恵木 康壮(あし外来2・4週)	※齊藤 翔吾(あし外来含む)		
		*尾崎 友香		*野村 香央里	*上原 ゆり子		橋本 耕一	
橋本 耕一		小林 浩一(完全予約制)	小林 浩一(1・3週)		*和田 友美			
産婦人科	午前産科(予約)		小林／*堀田／*和田	交替制／丸山	*尾崎 友香	*大村 恵梨香	非常勤／*上原 ゆり子	
	整形外科	午前	整形外科	飯島 卓夫	田代 俊之	飯島 卓夫	有野 裕介	飯島 卓夫
田中 哲平				孫 忠源	*大江 美萌子	木山 大輔	田代 俊之	
*大江 美萌子				中山 光			田中 哲平	
							木山／中山	
手外科		河野 慎次郎		河野 慎次郎				
		脊椎脊髄外科 (予約制)	平林 茂	休診	休診	俣田 敏旦	休診	
		熊野 洋						
脳神経外科	午前		緊急対応のみ	大野(初診／連携／救急)	高草木 宏之 (初診／連携／救急)	大野(初診／連携／救急)	緊急対応のみ	
					大野 博康(予約)			
小児科	午前		*高松 朋子	*高松 朋子	早川 潤	*中坪 亜里紗	*中坪 亜里紗	
			*中坪 亜里紗	*中坪 亜里紗	*中坪 亜里紗	*高松 朋子	*大野 幸子	
				上田 英	*高松 朋子	沼部 博直		
午後 予約外来		*高松朋子／*中坪亜里紗	*高松朋子／*中坪亜里紗	*高松朋子／*中坪亜里紗	*高松朋子／*中坪亜里紗	*山田ひかり／*中坪亜里紗		
眼科	午前		地場 達也	地場 達也	地場 達也	地場 達也	地場 達也	
						藤野 雄次郎		
泌尿器科	午前		*吉田(初診・予約外) *野崎(予約)	*野崎(初診・予約外) *吉田(予約)	*吉田(初診・予約外) *野崎(予約)	休診	*野崎 圭夏／*吉田 香苗	
耳鼻咽喉科	午前		*金谷 佳織	中田 智明	*金谷 佳織	*金谷 佳織	交替制	
			中田 智明				*水上 藍子	
皮膚科	午前		鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣	鳥居 秀嗣	
	午後(1:30～3:00)		*長谷川 晶子	*長谷川 晶子	*長谷川 晶子	*長谷川 晶子	*長谷川 晶子	
歯科・ 口腔外科	午前		中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	中野 雅昭	
			熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	熊谷 順也	



東京山手
メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談センター ☎ 03-3364-0366
FAX 03-3365-5951

<https://yamate.jcho.go.jp/>



この冊子は環境に
やさしい有害廃液の
出ないクリーン印刷
で作成しています